

文教住宅都市をバージョンへ

石井登志郎市長インタビュー



かんの雅一 六瀬寺町

私は6月、西宮市役所で石井登志郎市長にインタビューをしました。石井市長は2期目の市政の最重要課題について「文教住宅都市・西宮のバージョンアップ」を挙げ、「子育て環境をしっかりと整えた18歳までの医療費無償化について「可及的速やかにやりたい」と意欲を見せました。2面に関連記事の中で、石井市長は3月の市長選挙で再選したことについて「西宮のことは西宮市民によって決める」との訴えをまっすぐに貫けたことが勝因につながった」と分析。1期目の市政に対する自己評価については「70点」といいます。

西宮市議会議員

かんの雅一 まさかず

18歳までの医療費 無償化に意欲

行政経営 改革に本腰

行政経営改革については「硬直化した財政構造に2

その一つとして共働き家庭を応援し、子育て環境をしっかりと整えていきたい」と述べました。18歳までの医療費無償化については「可及的速やかにやりたい。市議会9月定例会で事業の具体的な規模やスケジュールを示したい」と述べました。



かんのインタビューに答える石井登志郎市長 六瀬寺町

私は引き続き議会運営委員を務め、常任委員会に所属します。議会から選ばれる附属機関の委員として都市計画審議会委員に選出されました。

市議会は6月定例会で坂上明議員(政新会)を議長に、山口英治議員(公明党議員団)を副議長に選びました。任期は慣例により1年間。

かんの健康福祉常任委員に

西宮市政報告

かんの新聞

第29号 年4回発行

ジャーナリストの視点で 調べる・伝える



元産経新聞記者 保守系無所属

期目で手を入れていかなければいけない」と強調。令和2年度から3年間で進めている行政経営改革前期実行計画の78の取り組み項目について「各担当部課から集めたメニューを並べるポトムアップの形になってしまった。私がリーダーシップを発揮するために改革できる部分を明確にしなければいけない」と指摘し、今後はトップダウンで行政経営改革を進める考えを明らかにしました。

そのうえで、「中期実行計画にどんな球をどのような濃度で並べるかが肝になる」と述べ、令和5年度からの中期実行計画の策定を通じて行政経営改革に本腰を入れる意向を示しました。

合葬式墓地进行整備

市が白水峡公園墓地に

令和5年度中に募集へ《墓じまいに対応》

市は白水峡公園墓地(山口町中野)に多数の遺骨を同じ場所に納める合葬式墓地の整備を進めています。急増する墓じまいの需要に対応し、良質な墓地を安価で安定供給することが目的。令和4年度末に完成させ、5年度中に募集を始めます。



白水峡公園墓地で整備中の合葬式墓地 山口町中野

納骨後は墓地の使用名義の変更を伴う次の世代への承継の必要はありません。後継者がいない場合でも無縁墓となることはなく、安心して納骨できることが特徴です。

市は白水峡公園墓地の中央園地の一部を使って合葬式墓地を整備しています。鉄骨造平屋建てで約225平方メートルの合葬棟を建設。この中に納骨袋に入れて1万個まで納められる合葬室と、1500個まで骨壺のまま個別に一定期間、安置できる合葬用納骨室を設けます。

合葬棟に隣接して参拝スペースを設けるのははじめ、合葬棟の屋根部分に球体のモニユメントも設置します。周囲に園路や駐車場、芝生、植栽を配置します。遺骨として納められた故人の名前などを記す墓誌も設置する予定。

問い合わせ先は 市斎園管理課
0798・35・3296

いつでも電話を!

新型コロナウイルスの感染拡大が私たちの暮らしを直撃しています。感染への不安や体調、仕事、経済的な問題、家庭の問題をはじめ、色々な事情でつらい思いをされている方が多いと思います。悩みを抱え込まないでください。いつでもいいので私に電話してください。一緒に考えましょう。私の連絡先はこのページの下に記載しています。メールやFAXでも結構です。

定期送付のご案内

西宮市政報告「かんの新聞」は年間4回、発行し、南甲子園地区(市立南甲子園小学校の校区など)と周辺地域を中心に各戸配布し、西宮市内に配達する産経新聞朝刊に折り込みとして入れます。それ以外の方、ビラ配布禁止の集合住宅にお住まいの方、確実に入手したい方には定期的に送付します。下記●印の必要事項を記載いただき、お申し込みください。市政へのご意見、ご要望や「かんの新聞」のご感想も書き添えいただければ、うれしいです。「かんの新聞」のバックナンバーをご希望の方もご連絡ください。

●「定期送付希望」●郵便番号●ご住所●お名前●ご連絡先電話番号●メールアドレス

はがき宛先 〒663-8153 西宮市南甲子園3丁目4-51-101 メール・FAXでのお申し込みはかんの雅一宛 本紙最下段に記載の宛先まで

言葉の解説

政策調整会議とは何?

西宮市において市政を総合的かつ円滑に推進するため、意見や情報の交換の場として市長や副市長をはじめとする局長級以上の幹部で開く会議。市政の基本的な方針や重要な施策・計画、執行体制などに関する議題が出され、全庁的な周知徹底を図り、各局の協力の確保を図ります。原則、月2回のペースで開催しています。コロナ禍を受けて令和2年7月からWeb会議形式で実施。会議の概要については職員に伝えるとともに、市のホームページを通じて市民に公開しています。



本名:菅野 雅一(かんの・まさかず)

昭和33年(1958年)、神戸市生まれ。上智大学文学部新聞学科卒業。昭和60年に産経新聞社に入社。平成27年1月に退社し、同年4月の市議選に初当選。31年4月の市議選で再選。保守系で政党無所属。「会派・ぜんしん」メンバー。南甲子園自治会副会長。NPO法人海浜の自然環境を守る会副理事長。社会福祉法人真砂ちどり保育園理事長。防災士。保育士。

次号は令和4年11月の発行予定です

かんの雅一事務所

〒663-8153 西宮市南甲子園3丁目4-51-101

TEL:090-1895-1488 FAX:0798-40-9530

《MAIL》info@kannomasakazu.com

●詳しい政策はホームページへ www.kannomasakazu.com

かんの雅一

検索

石井登志郎市長インタビュー 主な一問一答

1期目の自己評価は「70点」

3月の市長選挙を振り返っての感想は。

「西宮のことは西宮市民によって決める」との訴えをまっすぐに貫けたことが勝因につながったと思う。国政の構図や中央の影響ではなく、市長選について西宮を一緒に考える機会と位置づけて、そういう訴えをした。そのことに市民が応えてくれた」

1期目の4年間についての自己評価は。

「70点」という言い方をしている。自分で『落第』とか『100点』と『100』はおおがましい。1期目の最初は地方自治の仕組みや役所の体質をわかっていない所があったし、3年目や4年目はコロナ一色だった」

「行政経営改革について、市職員と市民が一緒になって取り組み、地域活動が活発になるような仕組みを進めたかったが、不十分だった。これからやっつけていきたい」。

子育て環境を整える

2期目の最重要課題は何ですか。
『文教住宅都市・西宮のバージョンアップ』と申し上げている。その一つとして共働き家庭を応援し、子育て環境をしっかりと整えていきたい。働ける



石井登志郎市長(右)とかなの=西宮市役所

場をつくることを意識して進めたい」
公約である「2050年環境都市ビジョンの策定はどのようなものですか」。

「令和5年は環境学習都市宣言から20年、文教住宅都市宣言から60年の節目の年だ。令和7年には市制施行から100周年を迎える。大きな節目に合わせて、新たなビジョンを策定し、環境学習都市宣言やゼロカーボンシティの表明をした自治体にふさわしい持続可能なまちづくりを目指す。行政だけではなく、市民の皆さんと一緒にアクションを起こせるようなビジョンにしたい」

甲子園浜は西宮市のアイデンティティ

市長は公約で「国が進める名神湾岸連絡線建設工事については、影響を受ける市民・事業者の側に立ち影響を最小限に留める対応をします」と約束しました。どのように取り組みますか。
「書いた通りだ。市としては国がこの事業を採択するまでは県と一緒に早期事業化をお願いしてきた。しかし、この事業では直接、影響を受ける市民や西宮浜の事業者が多くおられる。国策で市民に迷惑をかける可能性があるわけだから、市民や事業者だけに対応を任せるのではなく、市

場をつくることを意識して進めたい」
公約である「2050年環境都市ビジョンの策定はどのようなものですか」。

市民が活動しやすい社会に 市職員はネアカに仕事を

民や事業者の立場に立って国に対して物を言っていく」

甲子園浜の環境保護についての考えは。

「国の鳥獣保護区に指定されているのは貴い。西宮市のアイデンティティでもあるので、守っていききたい」

市民の電話のたらい回しを防止へ

令和5年6月から総合コールセンターが業務を始めますが、その狙いは。
「市民からの電話がたらい回しにされないようにしたい。担当課に回さなくても答えられるようにする。質問と回答のデータが蓄積されるまでは大変だが、半年や1年も経つと、コールセンターで適切に対応できるようになるだろう。そうなるまで、職員は業務が減り、職員にしかできない仕事に集中できるようにする」

公約である認知症無償診断制度の新設の目的は。
『認知症になられても社会全体で支えます』ということを示すこととして示し、入り口となる診断を無料にすることでみんなが安心できる環境をつくっていききたい」

斎藤知事とは良い関係

昨年8月に就任した斎藤元彦・兵庫県知事との信頼関係の構築は。
「知事が変わっても基本的に県と

市の関係が変わるわけではないが、斎藤知事とは良い関係を築けていると思う。その関係をうまく生かしていきたい」

市民に訴えたいことは。
「市民の皆さんに活躍していただくにあたって、役所の縦割りがやまを減らして、役割があつたように思う。そういうことに関して、どんどん改革していかなければいけない。市民の皆さんには見守っていただいただけではなく、温かくご意見をいただきながら、市民の皆さんが地域で活動しやすい社会をつくっていききたい」

市職員に言いたいことは。
「ネアカに仕事をしてほしい。明るく前向きなエネルギーがないといけない」

ゼロカーボンシティとは

環境省は2050年(令和32年)に二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を公表した。地方自治体をゼロカーボンシティとしています。西宮市では石井市長が令和3年度施政方針で表明しました。市民や事業者が地球にやさしい行動や消費、選択をできるように支援を充実させていくほか、再生可能エネルギーなどの導入・調達などについて検討を進めていきます。

西宮市が情報管理で対策強化 再委託禁止を徹底へ

尼崎市の情報の一時紛失を受け

尼崎市の全市民約46万人の個人情報が入ったUSBメモリーが6月、一時紛失した問題を受け、西宮市は情報管理について強化する取り組みを進めています。「本市は住民情報の管理方法がより厳格であるため、同様の問題が発生する可能性はない」(デジタル推進部)としているものの、「情報管理に完全はない」(同)として対策を進めています。

報道によりますと、尼崎市が新型コロナウイルス対策の臨時特別給付金の支給事務を委託している会社の協力会社の委託先社員が6月21日、大阪府吹田市の居酒屋で飲食後、同市内の路上で寝込み、USBメモリーが入ったかばんをなくしました。この社員は24日、同市内のマンション敷地内でメモリーが入ったかばんを見つけました。

メモリーには、全市民の住民基本台帳情報をはじめ、住民税の情報や非課税世帯等臨時特別給付金の対象世帯情報、生活保護受給世帯と児童手当受給世帯の口座情報が入っていました。メモリーにはパスワードが設定され、データは暗号化処理されていたとのことです。

社員は吹田市に設置されている尼崎市のコールセンターで更新作業をするためにデータを持ち出しました。作業終了後にメモリー内のデータを消去しませんでした。

西宮市は①個人情報をUSBメモリーで持ち出せない②委託業者などの外部の人間は本市の個人情報を無断で持ち出せない③委託業者に対しては市に申請せずに再委託を行うことを禁止している④個人情報の持ち出しの際は業務上必要となる情報のみに限定している一として「尼崎市のような問題が本市で発生する可能性はない」(同)としています。

西宮市で業務のため個人情報や外部業者に提供する場合はデジタル推進部の職員がデータをCD-R(データを書き込めるコンパクトディスク)に入れて担当課を通じて渡しています。CD-Rにはパスワードが設定され、データは暗号化処理されています。市からの情報提供



西宮市役所=六湛寺町

は全て、媒体記録簿に記載して管理しています。

西宮市は委託業者の中で再委託しているケースがないかを調査し、市への申請のない再委託の禁止を徹底するをはじめ、印刷請負業者にも情報管理を義務づけるため、委託業者向けの仕様書の対象範囲を広げる方向で検討しています。



甲子園九番町に 来年10月完成予定

明和病院が第二病院を建設

慢性期などの入院患者専門 一般的な外来診療は行わず

明和病院(上鳴尾町)は甲子園九番町にある阪神電気鉄道の所有地を借りて慢性期などの入院患者を専門とする第二病院Ⅱ仮称Ⅱを建設します。明和病院の建て替え計画の一環として進めるもので、11月に工事に着手し、来年10月に完成する予定。

明和病院の施設は老朽化しているうえ、一部の施設が新耐震基準を満たしていないため、建て替えの必要があります。このため、まず第二病院を建設して現在、357床ある入

院病床の一部を第二病院に移し、空いたスペースを活用して病院施設を順次、建て替えることにしました。

第二病院の計画では、約4013平方メートルの敷地に鉄筋コンクリート造地上4階建て約6284平方メートルを建設。153床の入院病床を設けます。

第二病院は回復期リハビリ病棟や療養病棟、地域包括ケア病棟で構成。各種検査や緊急診察依頼、退院患者の外来を除いて一般的な外来診療は

行いません。CTや超音波などの検査機器を設置するほか、機能訓練室を設けます。感染症への対応として2階から4階の各階の病床の一部を隔離できる構造にします。

明和病院の山中若樹理事長は「急性期病院で治療を受けた後、病状が安定するまでの患者の受け入れをはじめ、超高齢社会においてニーズの高い療養患者やリハビリ患者を多方面から受け入れ、地域社会に対する貢献を果たしていきたい」と話しています。